

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立瀬田東小学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

教科に関する調査は、「①身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等」と「②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等」を一体的に問うものとなっています。

教科に関する調査からは、国語科では県の平均程度、算数科では県や全国の水準を上まわる結果が伺え、下記のような強み弱みがあらわれました。また、児童質問紙からは、基本的な生活習慣や自己有用感に課題が見られました。

《強み・弱み》

国語科<強み>「話すこと・聞くこと」の領域

- 「話すこと・聞くこと」の領域は、全国平均を0.8ポイント上回っています。目的に応じ話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考慮することや、資料を用いた目的を理解することができています。

<弱み>「書くこと」の領域 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域

- ▲「書くこと」の領域は、全国平均を5.3ポイント下回っています。目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られました。
- ▲「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域は、全国平均を6.3ポイント下回っています。また、児童質問紙「解答時間は十分でしたか(国語)」の質問で、「やや足りなかった」「足りなかった」という回答が全国平均より20.8ポイント上回っています。全体の中で、最後の5問に「言葉の特徴や使い方に関する事項」が配置されていて、無解答率が非常に高かったことから、前半の記述式の問題で時間がかかり、最後の問題まで解ききれなかったことも一因だと考えられます。

算数科<強み>

- 出題された5つの領域について、県平均をすべて上回っており、全国平均と比較して3領域が上回っているなど理解度の高さが見られます。
- 記述式の問題は、全国平均を0.5ポイント上回っています。

<弱み>

- ▲「図形」の領域は、全国平均を2.1ポイント下回っています。特に、三辺の長さが分かっている直角三角形の面積の求め方について課題が見られました。
- ▲算数科の学習に対する関心・意欲に低さが見られます。

児童質問紙より

- 学校に行くのは楽しいと感じている子が多いのが本校の特長です。
- 学習におけるICT機器の使用頻度について、全国・県平均を大きく上回っています。
- ▲学習面では、自分の考えを持ち、分かりやすくまとめ、話し合う活動に課題が見られます。
- ▲生活面では、朝食・起床・就寝などの生活習慣や、児童自身の自己有用感に課題が見られます。

【指導の充実に向けて】

- 授業においては、「読み解き、書き表す」活動を、国語科だけでなくその他の教科・学習場面で積極的に取り入れていくようにします。また、自分に何ができるか、わかるようになったかをふり返り、学びの成果を実感できるようにしていきます。
- 算数科では、主体的・対話的な学習活動を取り入れるなど指導内容の工夫を図ることで、算数の勉強が好きで大切だと思えるように児童の関心・意欲を高めていきます。
- 学級会の充実を図ることで、自己有用感を高め、話し合う活動の経験を深めることを目指します。